

中学校教育課程研究集会

～総合的な学習の時間～

奈良県教育委員会事務局学校教育課
指導主事 北浦 義弘

E-mail kitaura-yoshihiro@office.pref.nara.lg.jp

も く じ

- 1 次期学習指導要領改訂の方向性
- 2 奈良県学力・学習状況調査からの報告
- 3 総合的な学習の時間の意義
- 4 全体計画の作成
- 5 探究的な学習の単元構成
- 6 思考ツールの活用

1 次期学習指導要領改訂の方向性

これまでの中教審の議論の経過と今後のスケジュール

平成26年11月	中央教育審議会総会 「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問
平成26年12月	教育課程部会 ・ <u>教育課程企画特別部会</u> を設置
平成27年 1月	教育課程企画特別部会（第1回） ↓ 新しい時代にふさわしい学習指導要領の基本的な考え方や、 教科・科目等の在り方、学習・指導方法及び評価方法の在り 方等に関する基本的な方向性について、計14回審議
平成27年 8月	教育課程企画特別部会（第14回） 教育課程部会 ・「論点整理」をとりまとめ
平成27年 秋以降	論点整理の方向に沿って教科等別・学校種別に専門的に検討
平成28年	教育課程部会又は教育課程企画特別部会における議論を踏まえて、審議のまとめ
平成28年度内	中央教育審議会として答申

(小学校は32年度から、中学は33年度から全面実施予定。高校は34年度から年次進行により実施予定。)

1 次期学習指導要領改訂の方向性

これからの時代に求められる在り方

21世紀が知的基盤社会であるという認識は、前回改訂と共通。
グローバル化や情報化等の変化が加速度的となる中で、
将来の予測がますます難しい時代に。

(現代的な課題)

- ・ 社会的・職業的に自立した人間として、郷土や我が国が育んできた伝統や文化に立脚した広い視野と深い知識を持ち、理想を実現しようとする高い志や意欲を持って、個性や能力を生かしながら、社会の激しい変化の中でも何が重要かを主体的に判断できること。
- ・ 他者に対して自分の考え等を根拠とともに明確に説明しながら、対話や議論を通じて多様な相手の考えを理解したり自分の考え方を広げたりし、多様な人々と協働していくことができること。
- ・ 社会の中で自ら問いを立て、解決方法を探索して計画を実行し、問題を解決に導き新たな価値を創造していくとともに新たな問題の発見・解決につなげていくことができること。

1 次期学習指導要領改訂の方向性

学習指導要領改訂の背景

人工知能が進化して、
人間が活躍できる職業は
なくなるのではないか。

今学校で教えていることは、
時代が変化したら
通用しなくなるのではないか。

子供たちに、情報化やグローバル化など急激な社会的変化の中でも、
未来の創り手となるために必要な知識や力を
確実に備えることのできる学校教育を実現します。

人工知能(AI)が飛躍的に進化する中、**我が国の学校教育が育む「人間の強み」**が明らかになっています。

近年、飛躍的に進化した人工知能は、所与の目的の中で処理を行う一方、人間は、みずみずしい感性を働かせながら、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかなどの目的を考え出すことができ、その目的に応じた創造的な問題解決を行うことができるなどの強みを持っている。

⇒こうした人間の強みを伸ばしていくことは、学校教育が長年目指してきたことでもあり、社会や産業の構造が変化し成熟社会に向かう中で、社会が求める人材像とも合致するものです。



新しい教育課程では、**学校教育のよさをさらに進化**させていきます。

- ・ これからの時代に求められる知識や力とは何かを明確にし、教育目標に盛り込みます。 これにより、子供が学びの意義や成果を自覚して次の学びにつなげたり、学校と地域・家庭とが教育目標を共有して「カリキュラム・マネジメント」を行ったりしやすくなります。
- ・ 生きて働く知識や力を育む質の高い学習過程を実現するため、各教科における学びの特質を明確にするとともに、授業改善の視点（「アクティブ・ラーニングの視点」）を明確にします。 これにより、教科の特質に応じた深い学びと、我が国の強みである「授業研究」を通じたさらなる授業改善を実現します。

これからの教育課程の理念

<社会に開かれた教育課程>

- ① **社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。**
- ② **これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。**
- ③ **教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。**

1 次期学習指導要領改訂の方向性

学習指導要領改訂の方向性（案）

平成28年5月23日
教 育 課 程 部 会
総 則 ・ 評 価 特 別 部 会
資 料 3-1

新しい時代に必要なとなる資質・能力の育成

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な知識や力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要なとなる資質・能力を踏まえた 教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

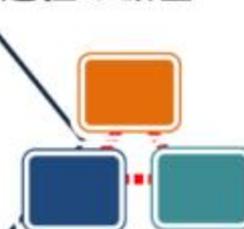
どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成

知識の力を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

深い学び
対話的な学び
主体的な学び



※高校教育については、些末な事実に基づく知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革を進める。

1 次期学習指導要領改訂の方向性

育成すべき資質・能力の三つの柱（案）

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

1 次期学習指導要領改訂の方向性

深い学びと学力の関係

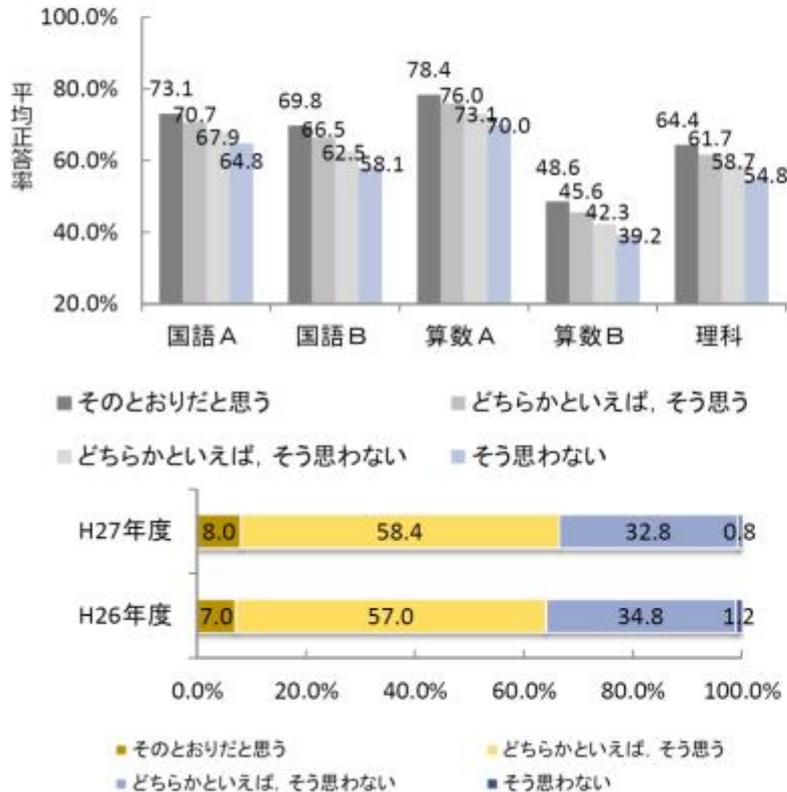
—平成27年度全国学力・学習状況調査の結果から—

◆「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるか」について、肯定的回答の方が平均正答率が高い状況であった。

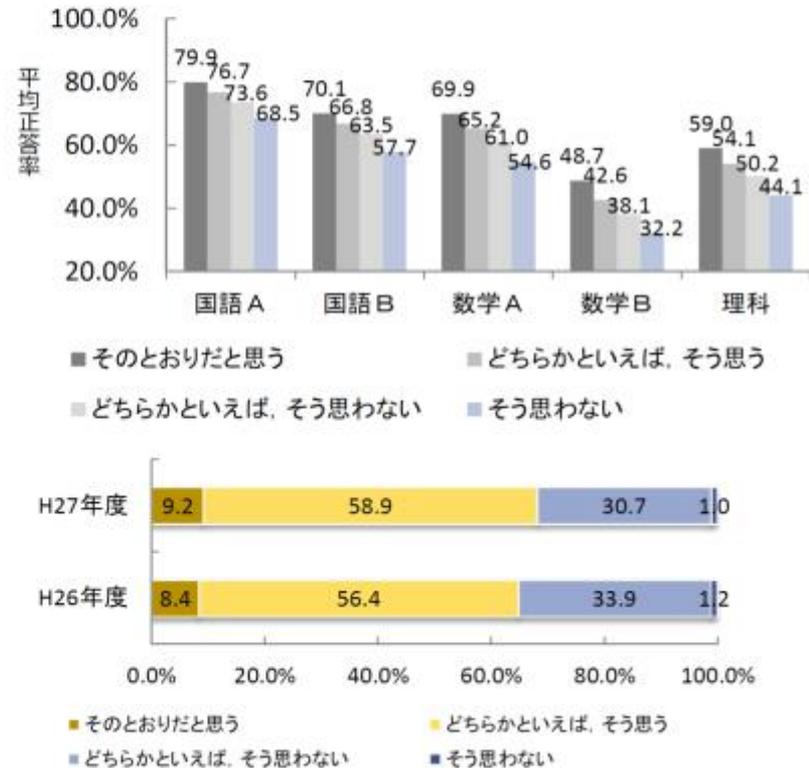
【質問項目】

調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思いますか。

【小学校】



【中学校】



※選択肢毎の平均正答率は、選択肢の回答数が100校未満のものについては、一つ前の選択肢の回答とまとめて算出

1 次期学習指導要領改訂の方向性

主体的・対話的で深い学びの実現（「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）について（イメージ）（案）

平成28年5月9日
教育課程部会
高等学校部会
資料8（会議後修正）

○「論点整理」におけるアクティブ・ラーニングの視点

【深い学び】

習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。

【対話的な学び】

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。

【主体的な学び】

子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

総則・評価特別部会及び各教科等WGの議論を踏まえ、以下のように整理できるのではないか

【深い学び】

習得・活用・探究の見通しの中で、教科等の特質に応じて育まれる見方・考え方を働かせて思考・判断・表現し、学習内容の深い理解や資質・能力の育成、学習への動機付け等につなげる「**深い学び**」が実現できているか。

【対話的な学び】

子供同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

【主体的な学び】

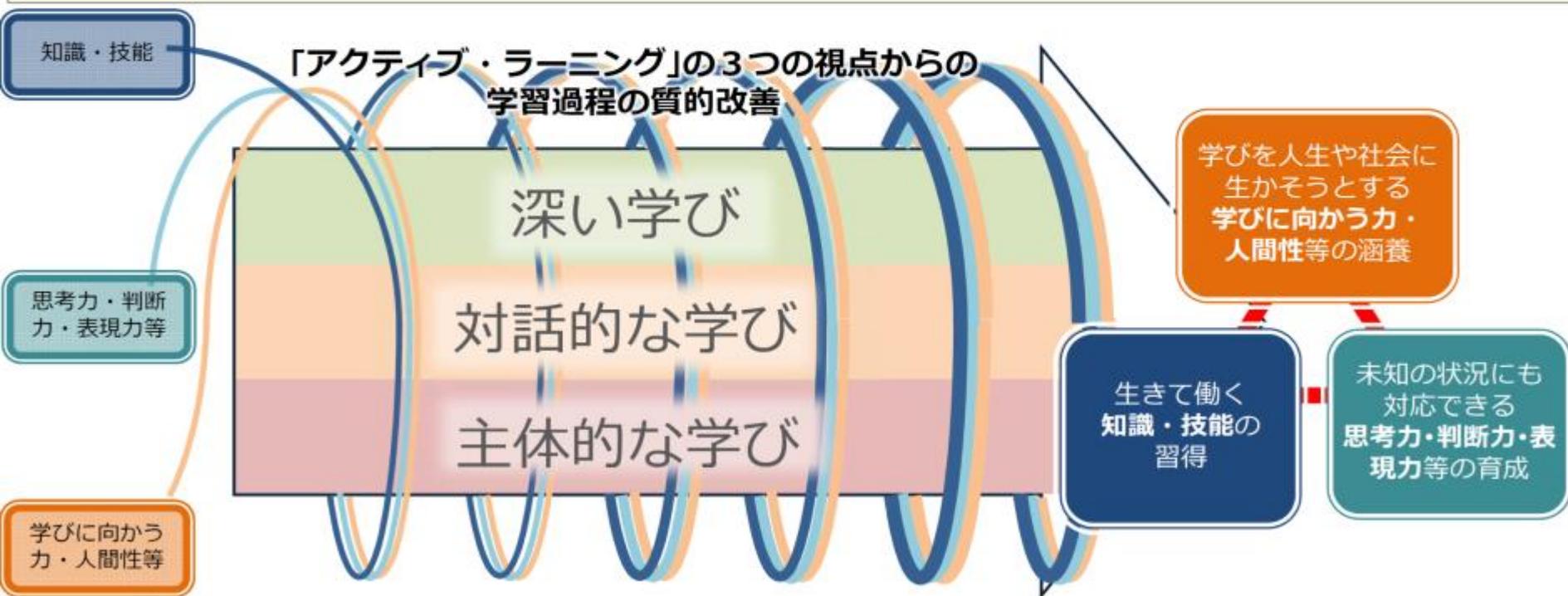
学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

1 次期学習指導要領改訂の方向性

資質・能力の育成と

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」の視点）の関係（イメージ）（案）

- ◆ 「アクティブ・ラーニング」の3つの視点を明確化することで、授業や学習の改善に向けた取組を活性化することができる。これにより、知識・技能を生きて働くものとして習得することを含め、育成すべき資質・能力を身につけるために必要な学習過程の質的改善を実現する。
- ◆ 資質・能力は相互に関連しており、例えば、習得・活用・探究のプロセスにおいては、習得された知識・技能が思考・判断・表現において活用されるという一方通行の関係ではなく、思考・判断・表現を経て知識・技能が生きて働くものとして習得されたり、思考・判断・表現の中で知識・技能が更新されたりすることなども含む。



※ 基礎的・基本的な知識・技能の習得に課題が見られる場合においても、「深い学び」の視点から学習内容の深い理解や動機付けにつなげたり、「主体的な学び」の視点から学びへの興味や関心を引き出すことなどが重要である。

1 次期学習指導要領改訂の方向性

総合的な学習の時間で育成する資質・能力(案)

総合的な学習の時間のイメージ (たたき台)

平成28年6月17日
生活・総合的な学習の時間WG
資料3-2

(第8回WG資料を修正)

探究する能力を育むための総仕上げとしての在り方を明確化し、名称についても見直す
(例えば「総合的な探究の時間」あるいは「探究の時間」等)

【高等学校】

◆学習指導要領で示す目標 (イメージ)

探究の見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の在り方生き方を考えることを通して、次のとおり資質・能力を育成する。

- 課題 (学習対象) に関する概念的知識を獲得し、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、探究の意義や価値を理解するようにする
- 実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力を育成する
- 主体的・協同的 (協働的) に課題を探究し、互いのよさを生かしながら、新たな価値の創造やよりよい社会の実現に努めようとする態度を育てる

◆各学校が設定する目標：上記を踏まえて、各学校が目標を設定するとともに、その目標を踏まえた内容を定める。

【中学校】

◆学習指導要領で示す目標 (イメージ)

探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えることを通して、次のとおり資質・能力を育成する。

- 課題 (学習対象) に関する概念的知識を獲得し、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解するようにする
- 実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力を育成する
- 主体的・協同的 (協働的) 探究的な学習に取り組み、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画する態度を育てる

◆各学校が設定する目標：上記を踏まえて、各学校が目標を設定するとともに、その目標を踏まえた内容を定める。

【小学校】

◆学習指導要領で示す目標 (イメージ)

探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えることを通して、次のとおり資質・能力を育成する。

- 課題 (学習対象) に関する概念的知識を獲得し、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解するようにする
- 実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力を育成する
- 主体的・協同的 (協働的) 探究的な学習に取り組み、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画する態度を育てる

◆各学校が設定する目標：上記を踏まえて、各学校が目標を設定するとともに、その目標を踏まえた内容を定める。

各教科等の特質に応じて育まれる見方・考え方を、総合的な学習の時間の時間で総合的に活用
い学習が実現
各教科等
各教科等の見方・考え方が成長し、一深

総合的な学習の時間の目標(案)

【小中学校】

探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えることを通して、次のとおり資質・能力を育成する。

- ①課題(学習対象)に関する概念的知識を獲得し、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解するようにする
- ②実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力を育成する
- ③主体的・協同的(協働的)探究的な学習に取り組み、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画する態度を育てる

総合的な学習の時間の評価

①総合的な学習の時間の目標を踏まえた観点

「よりよく問題を解決する資質や能力」 「学び方やものの考え方」
「主体的、創造的、協同的に取り組む態度」 「自己の生き方」 など

②「育てようとする資質や能力及び態度」を踏まえた観点

(例1)「学習方法」 「自分自身」 「他者や社会とのかかわり」
(例2)「課題設定の力」「情報収集の力」(学習方法) 「将来展望の力」(自分自身)
「社会参画の力」(他者や社会とのかかわり) など

③各教科の評価の観点との関連を明確にした観点

学習活動に関わる 「関心・意欲・態度」 「思考・判断・表現」
「技能」 「知識・理解」 など

総合的な学習の時間の評価の観点(案)

平成28年6月17日
生活・総合的な学習の時間
資料3-2

○ 総合的な学習の時間の評価については、各学校が自ら設定した観点の趣旨を明らかにした上で、それらの観点のうち、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、生徒にどのような資質・能力が身に付いたかを文章で記述することとしている。

○ 観点の設定の仕方については、現行では、以下の3つを例示。

(「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」(平成22年5月初等中等教育局長通知))

① 学習指導要領に定める総合的な学習の時間の目標を踏まえた設定

(「よりよく問題を解決する資質やの能力」「学び方やものの考え方」「主体的、創造的、協同的に取り組む態度」「自己の生き方」)

② 「学習方法に関すること」「自分自身に関すること」「他者や社会とのかかわりに関すること」等の視点に沿って各学校において育てようとする資質や能力等を踏まえて設定

③ 教科との関連を明確にした設定

(総合的な学習の時間の学習活動にかかわる「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」)

○ 今般の全教科横断的な評価の観点の見直しの方向性を踏まえると、今後総合的な学習の時間の評価について、各学校において教科との関連を明確にした評価の観点を設定する場合には、以下のような趣旨による設定が適当ではないか。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨 (イメージ)	高等学校 学習課題に関する概念的知識を獲得し、よりよい課題解決のために必要な知識や技能を身に付けている <u>探究することの意義や価値を理解している</u>	実社会や実生活の中から問いを見出し、探究的な見方・考え方をを用いて、自分で課題を立て、情報を集め、整理してまとめ、発表している	実社会や実生活の中から問いを見出し、主体的・協働的(協同的)に課題の解決に取り組み、学習したことを自己の生き方に生かし、 <u>主体的にさらに高次の課題に取り組もうとしている</u>
	中学校 学習課題(対象)に関する概念的知識を獲得し、よりよい課題解決のために必要な知識や技能を身に付けている <u>探究的な学習のよさを理解している</u>	実社会や実生活の中から問いを見出し、探究的な見方・考え方をを用いて、自分で課題を立て、情報を集め、整理してまとめ、発表している	実社会や実生活の中から問いを見出し、主体的・協働的(協同的)に課題の解決に取り組み、学習したことを自己の生き方に生かし、 <u>積極的に次の課題に取り組もうとしている</u>
	小学校		

2 奈良県学力・学習状況調査からの報告

奈良県学力・学習状況調査(生徒質問紙調査)

〈肯定的な回答ほど、平均正答率が高いもの〉

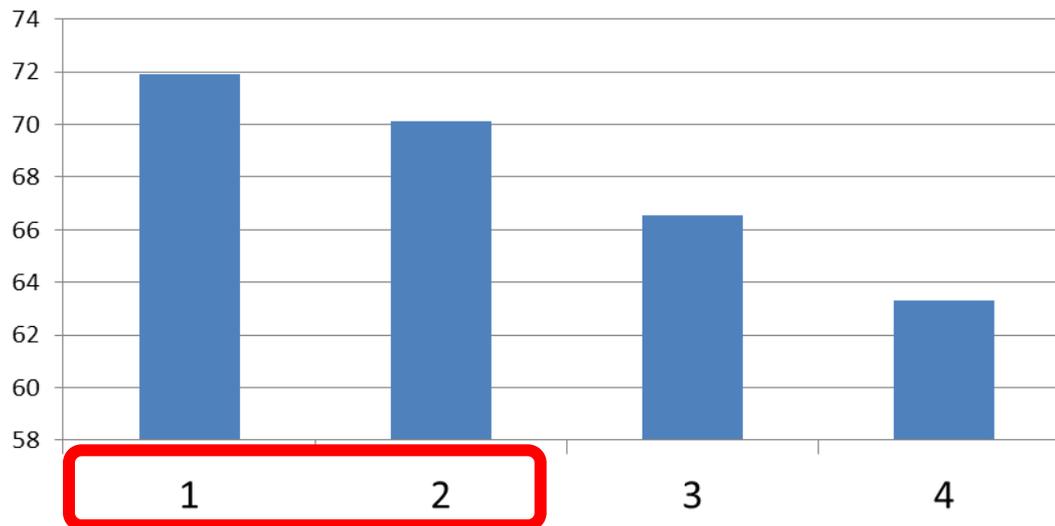
下のグラフで、「家で復習をしている」と答えた生徒ほど平均正答率が高く、「復習をしていない」と答えた生徒ほど平均正答率が低い。

このような、質問に対する回答結果と平均正答率との間に相関関係が見られるものを紹介する。

家で、学校の授業の復習をしていますか

国語と数学の相加平均

平均正答率



- 1 している
- 2 どちらかといえばしている
- 3 どちらかといえばしていない
- 4 していない

〈肯定的な回答ほど、平均正答率が高いもの〉①

○家庭学習状況

- ・家で、自分で計画を立てて勉強をしている。
- ・家で、学校の授業の復習をしている。
- ・疑問に思ったことは自分で調べてみようと思う。

○自尊感情

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。
- ・自分は、先生から認められていると思う。
- ・自分には、よいところがあると思う。

〈肯定的な回答ほど、平均正答率が高いもの〉②

○規範意識

- ・学校の規則を守っている。
- ・友達との約束を守っている。
- ・学校では、先生に挨拶をしている。

○社会に対する興味・関心

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている。
- ・家庭で、地域や社会で起こっている問題や出来事を話題にしている。

2 奈良県学力・学習状況調査からの報告

奈良県学力・学習状況調査(生徒質問紙調査)

〈肯定的な回答ほど、平均正答率が高いもの〉③

○授業において

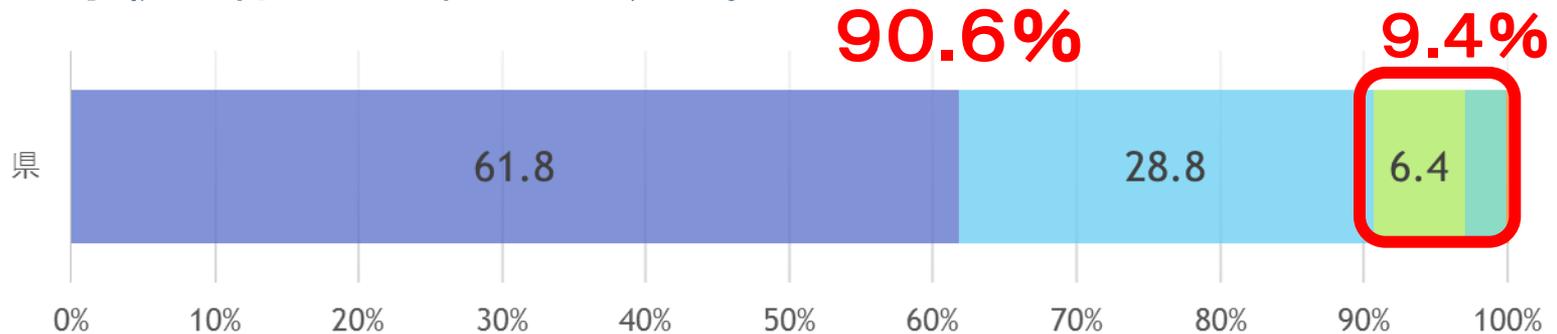
- ・小学校では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う。
- ・小学校では、授業のはじめに目標(めあて、ねらい)が示されていたと思う。
- ・小学校では、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。

2 奈良県学力・学習状況調査からの報告

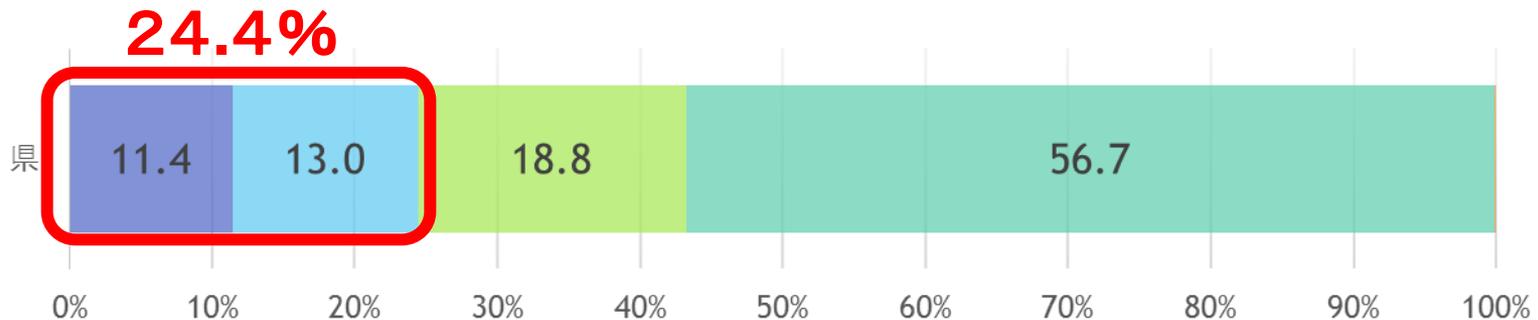
奈良県学力・学習状況調査(生徒質問紙調査)

登校や学校生活について

○学校に行くのは楽しいですか。



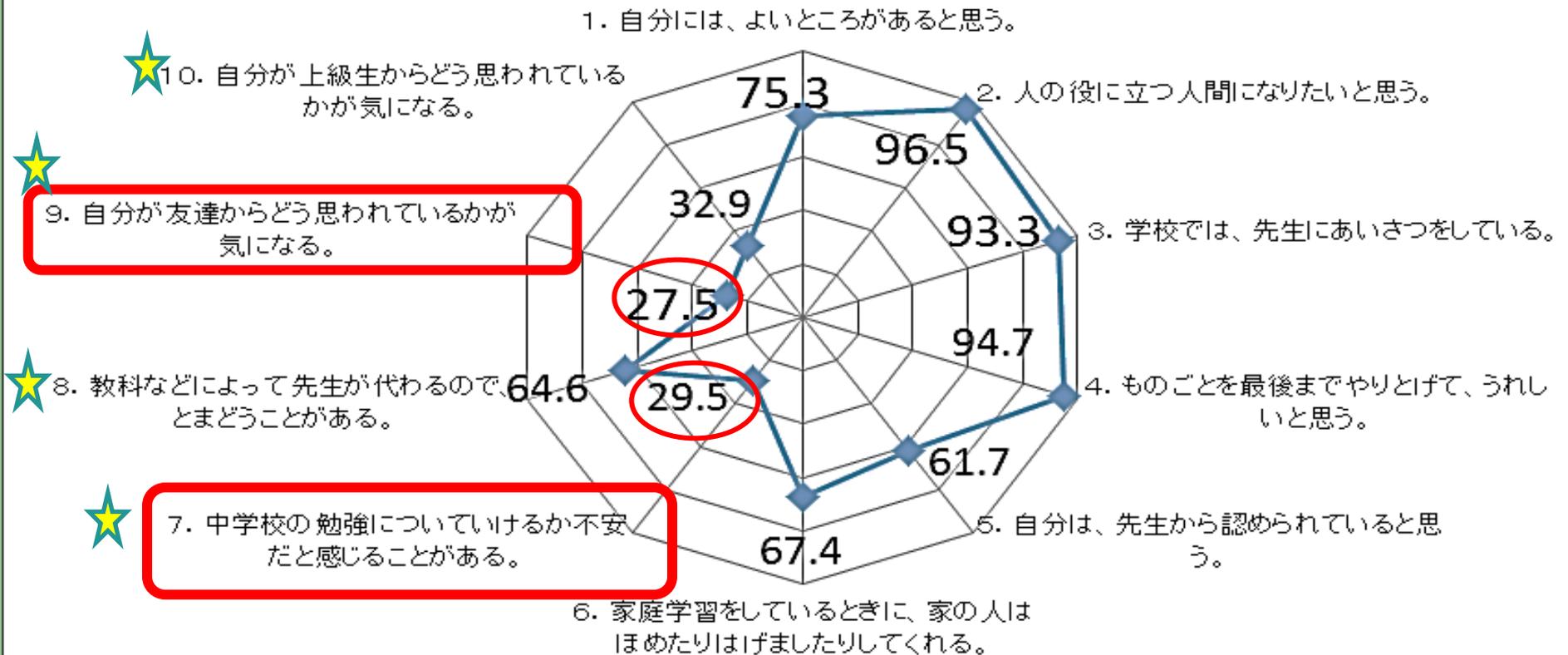
○学校に行けない、または、行きたくないと思うことがありますか。



2 奈良県学力・学習状況調査からの報告

奈良県学力・学習状況調査(生徒質問紙調査)

生徒質問紙調査 (県平均)



※設問1～10のうち、

1～6は、「思う」、「どちらかといえば思う」と回答した生徒の割合の合計

7～10は、「どちらかといえば思わない」、「思わない」と回答した生徒の割合の合計を表す。

2 奈良県学力・学習状況調査からの報告

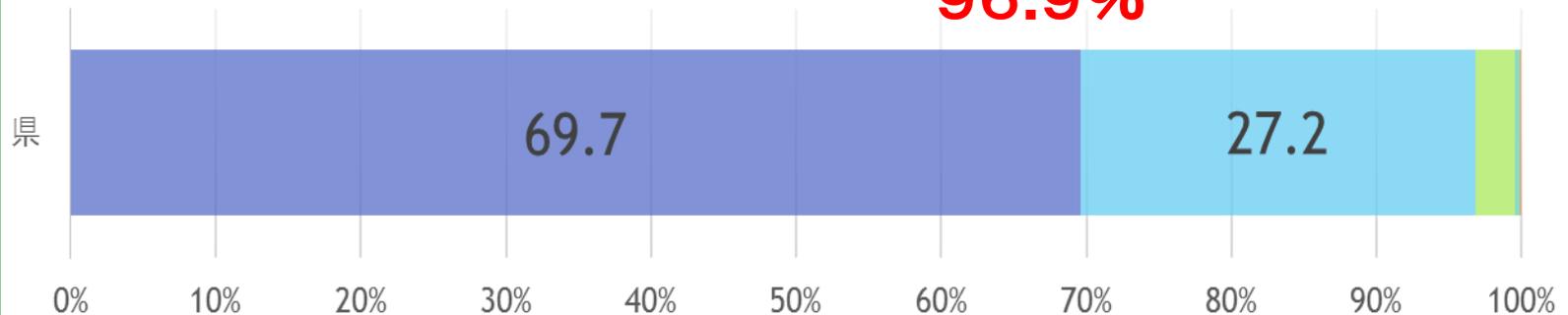
奈良県学力・学習状況調査(教員質問紙調査)

あいさつ指導

生徒のよいところを見付け、褒めているか

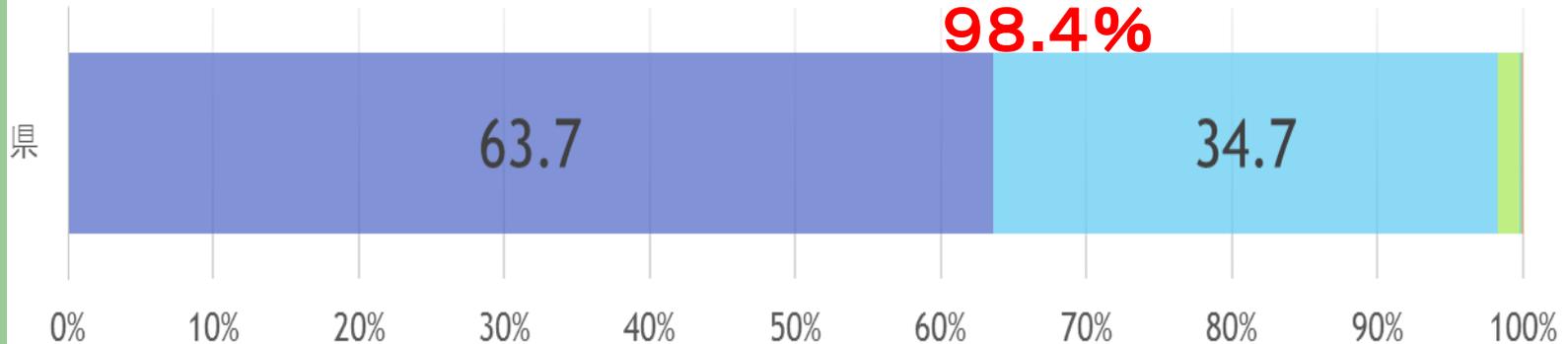
○ 生徒に学校や地域で挨拶をするよう指導していますか。

96.9%



○ 学校では、生徒のよいところを見付け、褒めていますか。

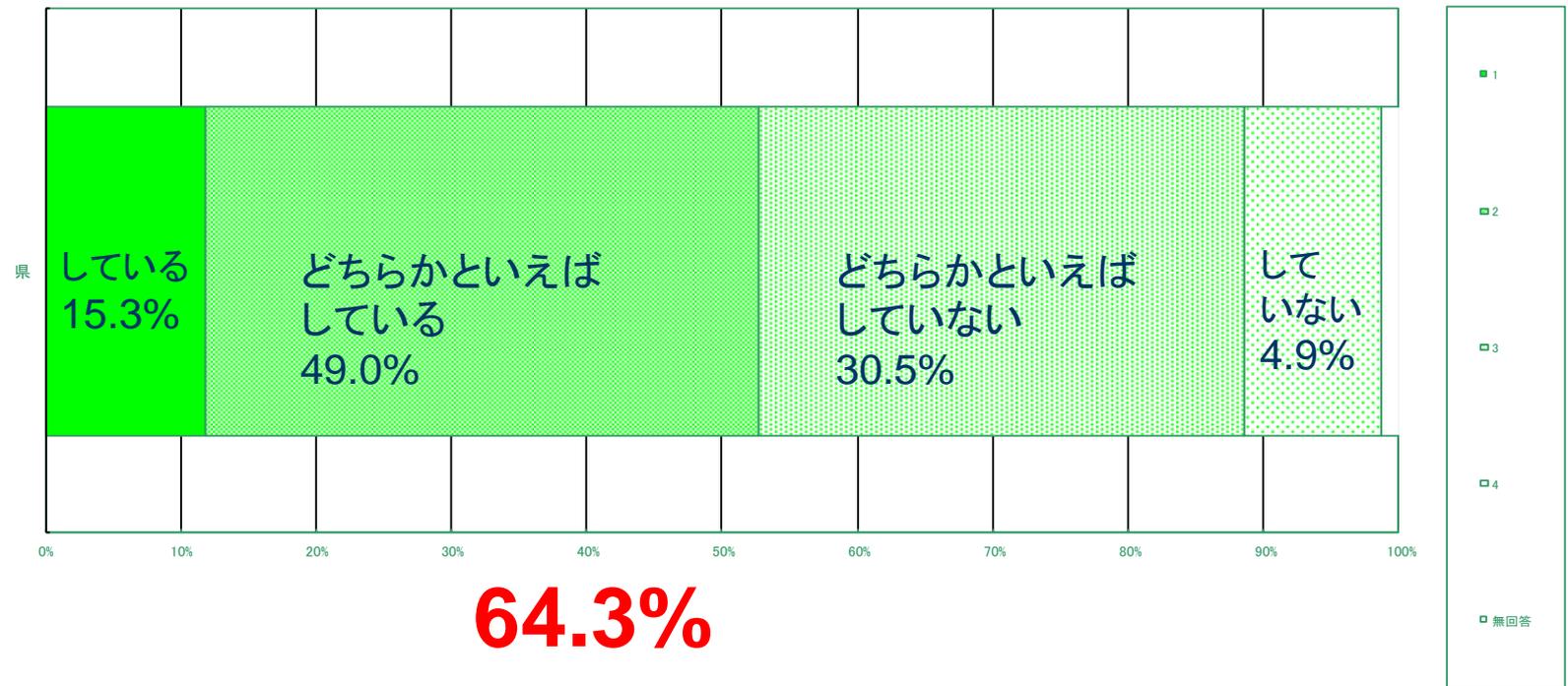
98.4%



2 奈良県学力・学習状況調査からの報告

奈良県学力・学習状況調査(教員質問紙調査)

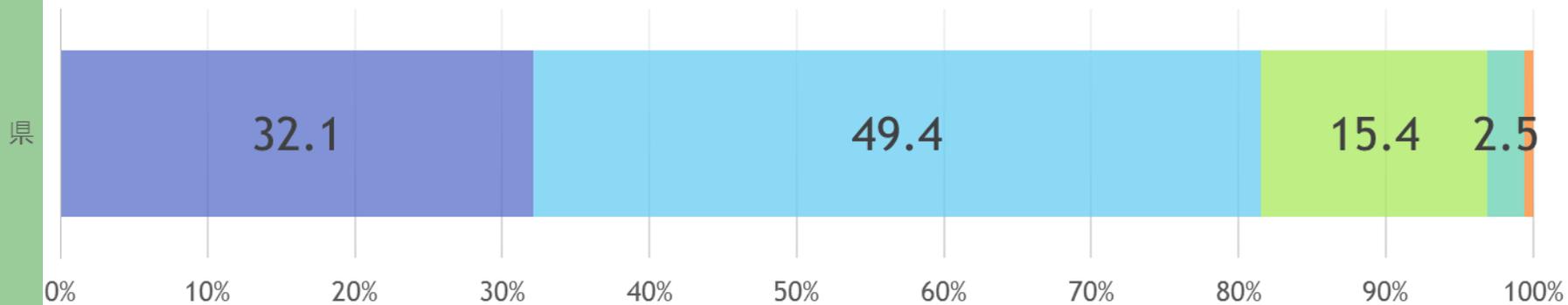
総合的な学習の時間では、課題の設定から始まる探究的な過程を意識した指導をしていますか。



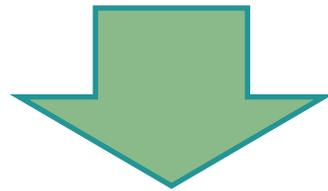
2 奈良県学力・学習状況調査からの報告

奈良県学力・学習状況調査(教員質問紙調査)

学校全体の学力傾向や課題について、
他の職員と共有していますか。



奈良県学力・学習状況調査、全国学力・学習状況調査



自校の生徒の実態を共有

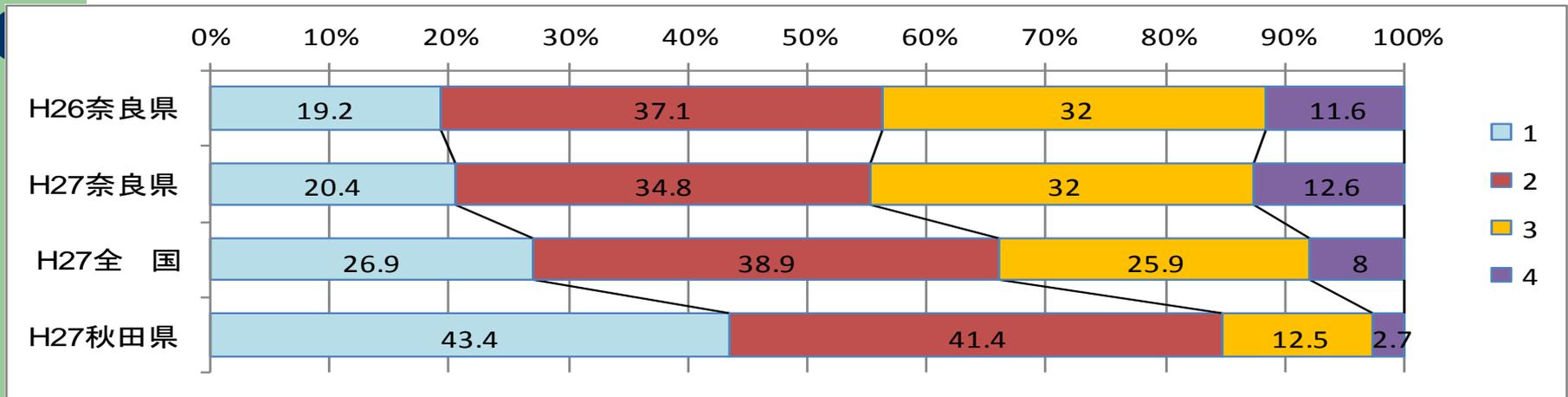
教職員の一致した指導

総合的な学習の時間の目標

横断的・総合的な学習や**探究的な学習**を通して、自ら課題を見付け、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、**協同的**に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

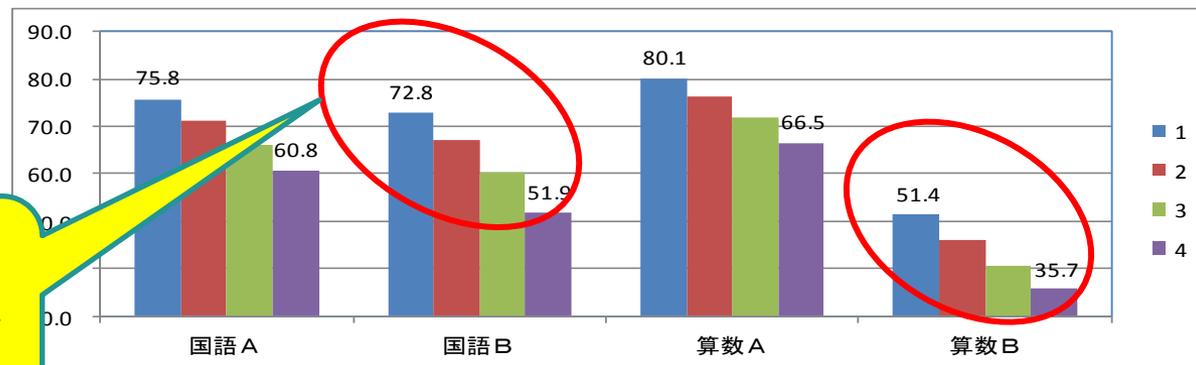
調査結果の分析と活用について 質問紙調査結果を教育活動に生かす

「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



平均正答率との関連

- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

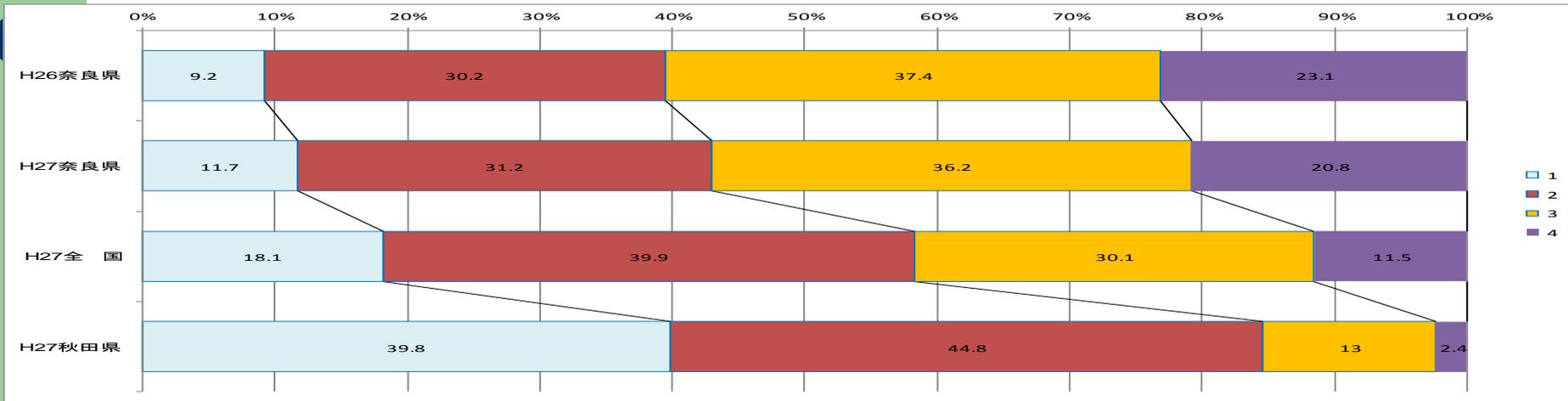


平均正答率の差
 国語 B 約 21 ポイント
 算数 B 約 16 ポイント

3 総合的な学習の時間の意義

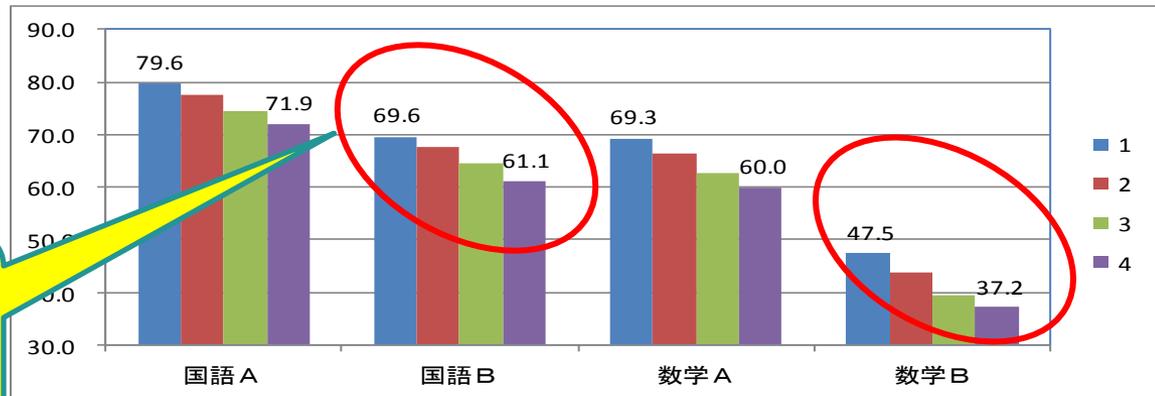
調査結果の分析と活用について 質問紙調査結果を教育活動に生かす

「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



平均正答率との関連

- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない



平均正答率の差
 国語B 約9ポイント
 数学B 約10ポイント

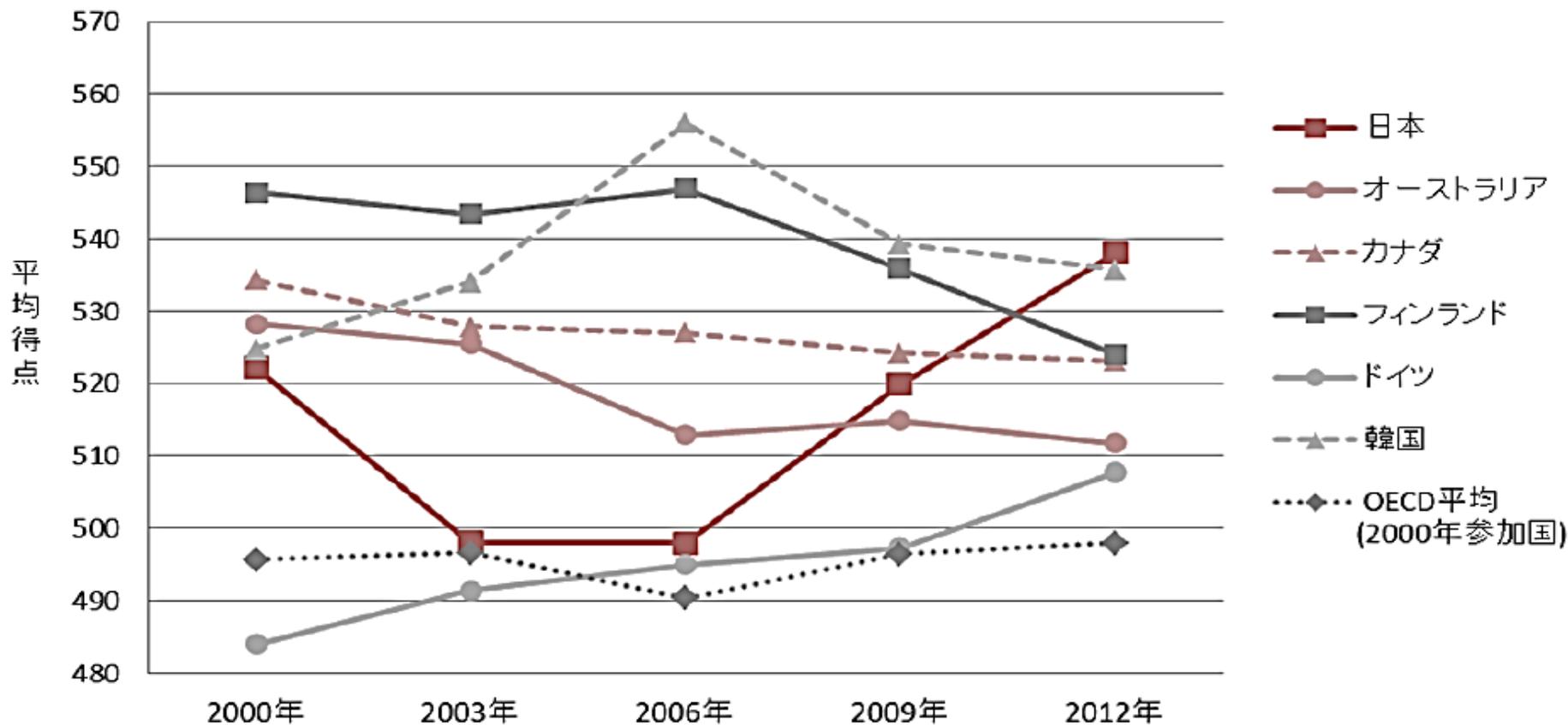
2012 PISA 調査報告

問題解決のスキルの育成は、教科と総合的な学習の時間の両方においてクロス・カリキュラムにおける生徒主体の活動に生徒が参画することによって行われているものである。

PISAの好成績を生み出しただけでなく、2003年から2012年にかけて生徒の学校への帰属意識の高まりなどが生まれている。

PISA調査受検者の 総合的な学習の時間の学習履歴

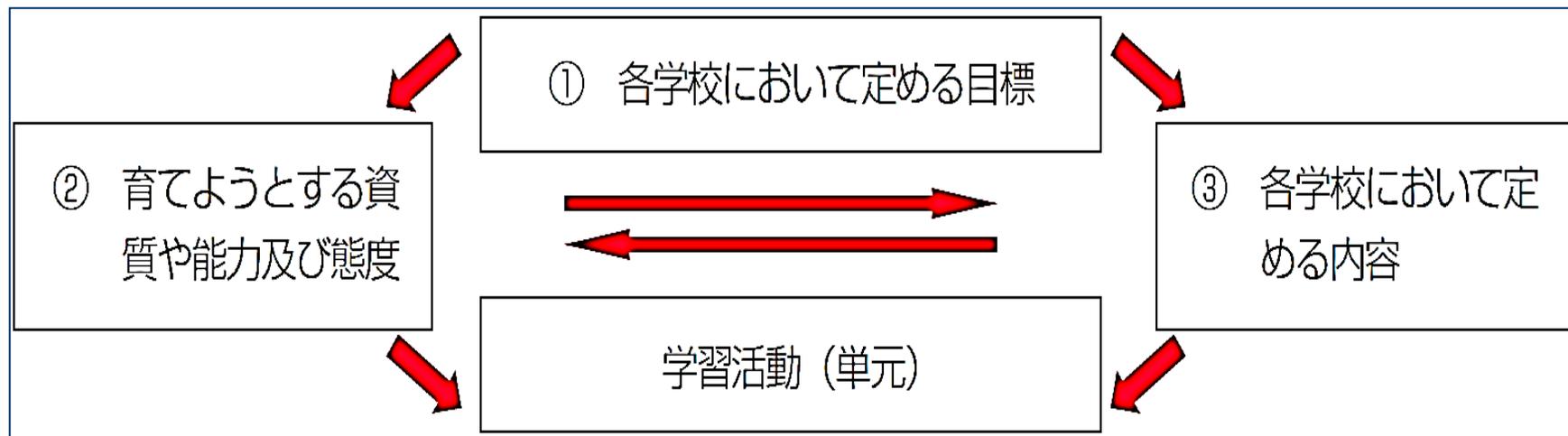
図 2.3 読解力の平均得点の経年変化（6 か国）



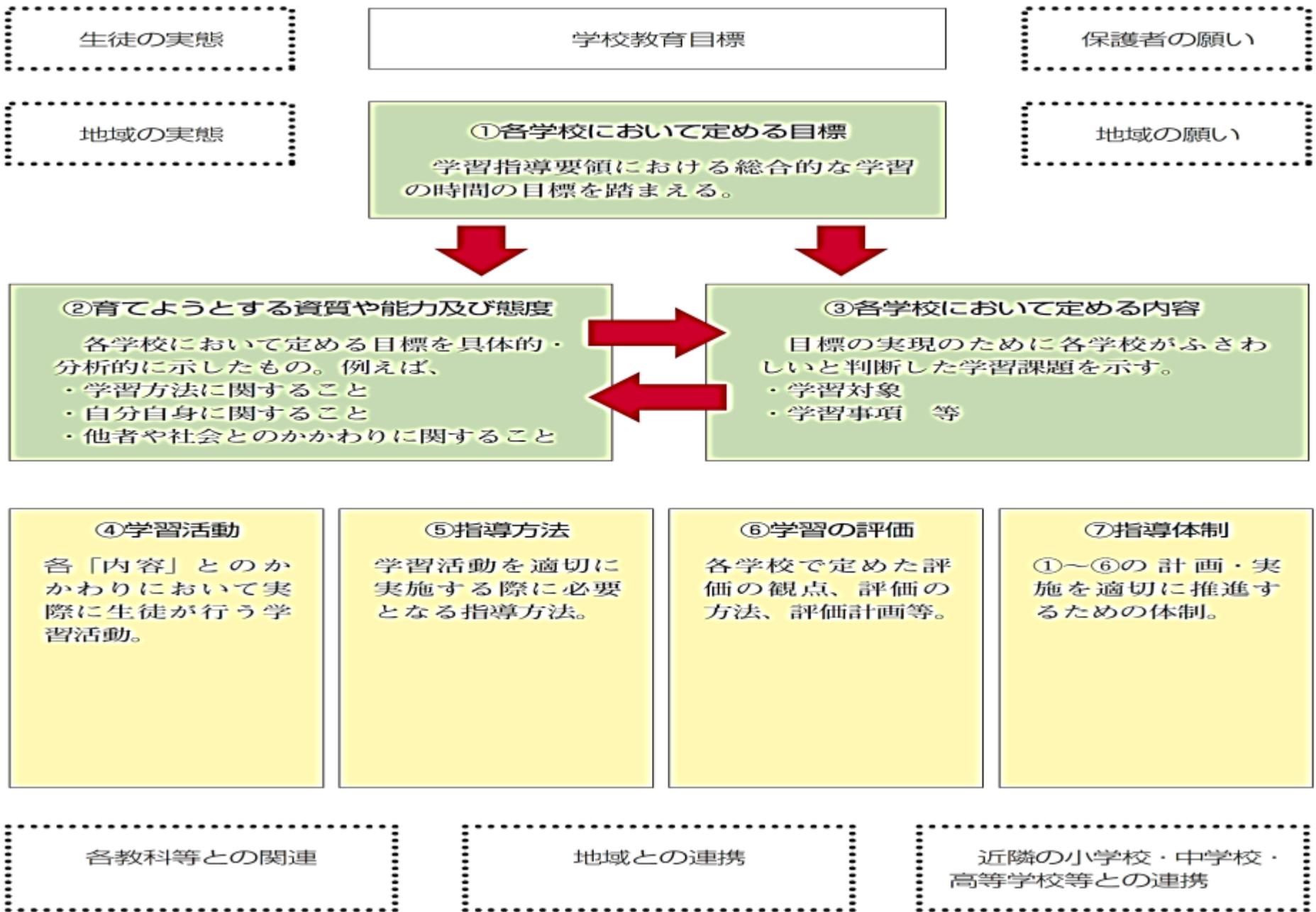
	2000	2003	2006	2009	2012
総合的な 学習の時間 の学習履歴	×	×	△	○	◎

全体計画の中心となる3要素

- ①各学校において定める「目標」
- ②各学校において定める「育てようとする資質や能力及び態度」
- ③各学校において定める「内容」



4 全体計画の作成



(1) 目標の作成(第1の目標を踏まえ作成する)

〈第1の目標の構成要素〉

- ①横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して
- ②自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに
- ③学び方やものの考え方を身に付け
- ④問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て
- ⑤自己の生き方を考えることができるようにする。

(具体例)

身近な地域の自然や社会とかかわりを通して①、課題を見付け、仲間と協力しながら②③、主体的・創造的・協同的に課題を解決しようとする④とともに、身近な地域の様々な人とかかわりを通して①、地域に対する親しみと愛着を深め、自分の生き方を考えようとする⑤。

*①～⑤は、学習指導要領の第1の目標を構成する5つの要素

4 全体計画の作成

(2)内容の作成

学習課題	学習対象	学習事項	
① 横断的・総合的な課題	国際	地域に暮らす外国人とその人達が大切にしている文化や価値観	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統や文化の特徴と日本人としての自覚 ・世界の国々の伝統や文化の特徴 ・異なる文化との共生を目指す活動や取組 など
	情報	情報化の進展とそれに伴う日常生活や消費行動の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な情報手段の機能と特徴 ・情報環境の変化と自分たちの生活とのかかわり ・目的に応じた主体的で責任ある情報の選択と発信 など
	環境	地域の自然環境とそこに起きている環境問題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然の存在とそのよさ ・環境問題と自分たちの生活とのかかわり ・環境の保全と持続可能な社会の創造のための取組 など
	資源エネルギー	自分たちの消費生活と資源やエネルギーの問題	<ul style="list-style-type: none"> ・社会を支える資源・エネルギー活用とその生産の現状 ・資源・エネルギー問題と社会生活とのかかわり ・省資源・省エネルギーと持続可能な社会の創造のための取組 など
	福祉	地域の高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者とその生活 ・現代社会における福祉の現状と問題 ・福祉問題の解決やよりよい福祉を創造するための取組 など
	健康	毎日の健康な生活とストレスのある社会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化と健康の保持・増進をめぐる問題 ・自分たちの生活習慣と健康とのかかわり ・より健康で安全な生活を創造するための取組 など
	食	食をめぐる問題と地域の農業や生産者	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の農業や生産者の現状と日本及び世界の食糧問題 ・食の安全や食料確保と社会生活とのかかわり ・食をめぐる問題の解決とよりよい食生活の創造を目指した取組 など
	科学技術	科学技術の進歩と社会生活の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の進歩と生活様式や価値観の変化 ・科学技術の進歩と社会生活とのかかわり ・科学技術をよりよく生活に生かし豊かな生活を創造しようとする取組 など
② 生徒の興味・関心に基づく課題	ものづくり	ものづくりの面白さや工夫と生活の発展	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりの面白さや工夫とそれを生かした生活の豊かさ ・ものづくりによる豊かな社会の創造と生活の発展 ・快適で自分らしい生活環境を生み出す取組 など

4 全体計画の作成

(3)内容の作成

	生命	生命現象の神秘、不思議、すばらしさ	<ul style="list-style-type: none"> ・生命現象の神秘や不思議、すばらしさ ・かけがえのない存在としての自己理解と自尊心 ・自他の生命の尊重を理解し守る取組 など
③ 地域や学校の特色に応じた課題	町づくり	町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々がつながり、支え合って暮らすことの意義と難しさ ・町づくりや地域活性化に取り組んでいる人々や組織とその思い ・地域の一員として、町づくりや地域活性化にかかわろうとする活動や取組 など
	伝統文化	地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統や文化のもつ特徴 ・地域の伝統や文化の継承に力を注ぐ人々や社会の仕組み ・地域の一員として、伝統や文化をよりよく継承し発展させていこうとする取組 など
	地域経済	商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化と地域の商店街が抱える問題 ・地域経済の活性化に向けて努力する人々とその思い ・地域の一員として、地域社会の再生にかかわろうとする活動や取組 など
	防災	防災のための安全な町づくりとその取組	<ul style="list-style-type: none"> ・災害の恐ろしさと防災意識の大切さ ・地域や学校で防災に取り組む意義と安全な町づくり、学校づくり ・地域や学校の一員として、災害に備えた安全な町づくり、学校づくりにかかわろうとする活動や取組 など
④ 職業や自己の将来にかかわる課題	職業	職業の選択と社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・職業による自己実現と社会貢献 ・自分自身の夢や適性と職業の選択 ・自分自身の職業的将来展望を模索する取組 など
	勤労	働くことの意味や働く人の夢や願い	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で働く人の存在とその夢や願い ・地域社会を支える様々な職業や機関 ・経済的自立と働くことの意味 など

4 全体計画の作成

(3) 育てようとする資質や能力及び態度の設定

育てようとする資質・能力及び態度の例

視点	小学校	中学校	高等学校
学習方法に関すること	課題設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複雑な問題状況の中から課題を設定する ・ 仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複雑な問題状況の中から適切な課題を設定する ・ 仮説を立て、それに適合した検証方法を明示した計画を立案する
	収集分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に応じて手段を選択し、情報を収集する ・ 必要な情報を収集し、多角的に分析する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に応じて臨機応変に適切な手段を選択し、情報を収集する ・ 必要な情報を広い範囲から迅速かつ効果的に収集し、多角的・实际的に分析する
	思考判断	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題状況における事実や関係を把握し理解する ・ 多様な情報の中にある特徴を見付ける ・ 課題解決を目指して事象を比較したり、関連付けたりして考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複雑な問題状況における事実や関係を把握し、自分の考えをもつ ・ 視点を定めて多様な情報を分析する ・ 課題解決を目指して事象を比較したり、因果関係を推測したりして考える
	表現省察	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現する ・ 学習の仕方や進め方を振り、学習や生活に生かそうとするなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手や目的、意図に応じて、論理的に表現する ・ 学習の仕方や進め方を振り、学習や生活に生かそうとするなど
自分自身に関すること	意思決定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自らの行為について意思決定する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自らの行為について責任をもって意思決定する
	計画実行	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標を設定し、課題の解決に向けて行動する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に行動する
	自己理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自らの生活の在り方を見直し、実践する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自らの生活の在り方を見直し、日常的に実践する
	将来展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の将来を考え、夢や希望をもつなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の将来を考え、夢や希望をもつなど
他者や社会とのかかわりに関すること	他者理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異なる意見や他者の考えを受け入れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重する
	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他者と協同して課題を解決する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 互いの特徴を生かし、協同して課題を解決する
	共生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身の回りの環境とのかかわりを考えて生活する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境の保全を考えて行動する
	社会参画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題の解決に向けて地域の活動に参加するなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題の解決に向けて社会活動に参画するなど

4 全体計画の作成

事例① A中学校 総合的な学習の時間 全体計画

＜生徒の実態＞

- 教師の指示をよく聞き行動する生徒
- 生徒会や部活動への積極的な取り組み
- 集団生活で周りを気にする生徒
- 自信を持って自分の意見を言えない生徒
- 自慢がとられる生徒
- 勉学への意識が高まっている

＜学校教育目標＞

- 自分から行動できる生徒
- 自規律を重んじる生徒
- 人の心に寄り添える生徒
- 命を大切にできる生徒

＜保護者の願い＞

- 学習に部活動に生徒会活動に一生懸命に取り組んでほしい
- 地域の人とならぶ生徒の成長を願っている
- 命を大切にできる生徒の育成を願っている
- 地域の人とならぶ生徒の成長を願っている
- 命を大切にできる生徒の育成を願っている

＜地域の実態＞

- 一人暮らしや高齢者など利用している
- 高齢者やそこで働く人々
- 地域の清掃活動を行う人々
- 歴史のある神社仏閣
- 風光明媚な自然
- 収穫祭・サービスふれあい祭
- 由緒ある伝統産業、文化

＜【いきいきタイム】の目標＞

自分と地域の「ひと・もの・こと」とのかかわりについて、探究的な活動を通して、総合的に追究する方法を見出し、仲間と協力して問題を解決するとともに、自己の在り方や生き方を見つけようとする

＜地域の願い＞

- 歴史と伝統のあるこの中学校でのびのびと学習し、地域と共に歩む生徒になってほしい

＜育てようとする資質・能力及び態度＞

学習方法	<ul style="list-style-type: none"> 複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する 課題解決を目指して事象を比較したり、因果関係を推測したりして考える 異なる意見や他者の考えを尊重したうえで、自分の考えを分かりやすく伝える
自分自身	<ul style="list-style-type: none"> 自己の将来を考え、夢や希望をもつ 自己の目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に行動する
他者や社会	<ul style="list-style-type: none"> 互いの特徴を生かし、協同して課題を解決する 課題の解決に向けて社会活動に参画する

＜内 容＞		
課題	学習対象	学習事項
環境	地域の自然環境とその環境に起因する問題を取り組む人々	校区の自然環境を調べ、他の地域と比較したりして、そのかきかかわりを具体的に考える
職業・将来	地域で働く人々の仕事や人に対する姿勢や願い	職業や自己の将来に関して、職場体験など探究活動に主体的に取り組み、自己を理解し自己の将来の生き方を考える
福祉	地域の高齢者や障害者や生活を支える人々	地域の高齢者や障害者や生活を支える人々の生活や課題を見出し、高齢者や障害者の安心ある暮らしについて考えを提案する

＜学習活動＞

1年	「学区の歴史を調べる」	「自然環境を調べる」	「地域の自然環境を調べる」
2年	「自分を見つめる」	「自分を見つめる」	「自分を見つめる」
3年	「自分を見つめる」	「自分を見つめる」	「自分を見つめる」

＜指導方法＞

- 課題意識を喚起する指導法の工夫
- 各教科との関連を意識した学習活動の展開
- 言語活動を積極的に取り入れた学習活動の位置づけ
- 対話やコミュニケーションを重視した学習活動の充実

（学習の評価）

- ポートフォリオを活用し、ポートフォリオを活用し、ポートフォリオを活用し、
- 観点別学習状況把握のための評価規程の設定
- 個人内評価の重視
- 指導と評価の一体化の重視
- 学期末、学年末における指導計画の評価と改善
- 授業分析による学習指導
- 評価と授業改善
- 学校運営協議会を活用した評価の実施

＜指導体制＞

- 学年部を中心とした指導とサポートの体制を構築する
- 学年会と学年部会での実践と情報の交流を行う
- オープンスペースの活用と学年全体での指導の活用を意識して行う
- 担任以外の教職員による支援体制を確立する